阪九フェリーの「やまと」進水

事務局長　池田良穂

三菱下関で進水する阪九フェリーの新造フェリーの進水式を見学のために、泉大津～新門司を阪九フェリーで往復しました。

この進水式には、大阪のビーナストラベルや阪急交通社が「進水式見学ツアー」を企画しており、いずれも阪九フェリーを利用しており、船内はなかなかの盛り上がりとなっていました。

1 月 9 日、泉大津のフェリーターミナルに行くと「やまと」が停泊していました。いつもは神戸航路に就航している船ですが、僚船のドック入りと神戸のフェリーターミナルの改装に伴う変則配船のためとのことでした。進水式の時まで、進水する船の船名が「やまと」とは知らなかったのですが、「代替される船に往復乗って代替船の進水式を見る」という結果になりました。自家用車で行きましたが、乗下船時ともにドライバー以外はターミナルから徒歩での乗船となっていました。車を車両甲板に駐車させると、大型のシャーシーやトラックで一杯の状態で、客室へのエレベーターに辿り着くまで、大型車の間の狭い空間を横歩きしながら進まねばならず、「車にはドライバーだけ」としている理由がよくわかりました。

泉大津を出港する 17 時半にはすでに真っ暗、新門司に到着した 6 時も真っ暗の状態でしたので、奇麗な瀬戸内海を眺めながらの航海とは行きませんでしたが、神戸の夜景、明石海峡大橋の通過などを楽しみ、さらに船上ではゆっくりと夕食を楽しむことができました。

10 日朝に、下船して下関駅を目指しました。三菱造船の近くには駐車場がないとのことでしたので、駅近くの駐車場に車を停め、バスまたはタクシーで造船所に行くためです。フェリーを下船して、高速道路を使い、関門橋を通ってわずか 30 分ほどで下関駅に到着してしまい、進水式が始まるまでの時間をつぶすのが大変でした。

8 時 45 分の開門の 30 分以上前に造船所のゲートに到着しましたが、すでに一般見学者の長蛇の列ができていました。日本クルーズ&フェリー学会の会員のお顔もたくさんありました。中には前日に内海造船で津軽海峡フェリーのフェリー「ブルールミナス」の進水式を見学してから下関に移動してきて、連チャンで進水式を見学するという人も何人かいたようです。

9 時から進水式行事が始まり、9 時 15 分から命名式、そしてその後支綱切断と同時に大きな船体が船台上を滑り降りて海上に浮かびました。感動的なシーンでした。

この後、唐戸の桟橋に移動して、巌流島まで高速船で往復して、島から進水直後の「やまと」の姿を撮影。造船所の岸壁では東海汽船の「さるびあ丸」も艤装中でした。一方、艤装中のはずの阪九フェリーの「せっつ」の姿は見えず、対岸の門司港の岸壁に繋がれていました。三菱の艤装岸壁が満杯のため、門司港で最後の艤装工事をしているとのことでした。

関門トンネルを使って門司港側に移動して、どこでシップウォッチングをしようかと思案した結果、門司から少し西側に海岸線を移動したところにあるスーパー銭湯で、湯船につかりながら関門海峡を行き来する船を見ることにしました。泉大津から乗船した「やまと」では 1 等室を使いましたが、意外に振動が大きくてなかなか寝つけず、さらに 5 時には起床して下船し、進水式では 1 時間以上たちっぱなしの状態だったのでちょっと疲れたこともあります。

ここで少し英気を養った後、さらに門司港近くでシップウォッチングをしてから、新門司へと車を走らせました。

帰りの「やまと」も、車両甲板は大型車でぎっしりで、その合間に乗用車が積み込まれるという状況でした。環境負荷低減とドライバー不足でモーダルシフトが進み、フェリー各航路共にキャパシティ不足の状態が続いているようです。

下関でお会いした会員からは、「「せっつ」の乗船会はいつですか?」という質問をいくつもいただきました。3 月には就航とのことですので、新年会には少し遅くなりますが、学会としての乗船会を企画しなくてはと思っています。

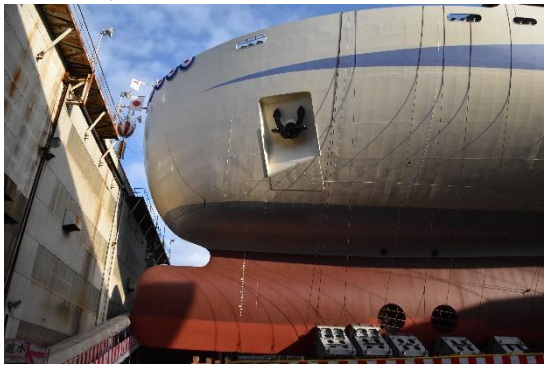
① 泉大津のフェリーターミナルに停泊する「やまと」です。観光バスが 5 台ほど来てツアー客が乗船しました。中に進水式見学ツアーの団体も 2 組ほどありました。

② 車両甲板は大型車で一杯。その隙間に乗用車が駐車します。大型車の間の狭い隙間を通って、客室へのエレベーターホールに辿り着きます。

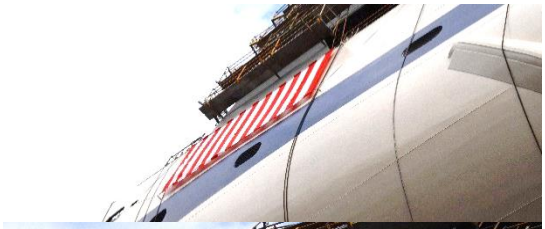
③ レストランには多彩なメニューが用意され、味も価格も、とっても妥当なものでした。かつてはフェリーの食事は「不味くて高い」と言われたものですが、そうした悪い評判は完全に払しょくされています。

④　以前、学会の乗船会で阪九フェリーに乗船した時に、遅れて並んで売り切れになった「ステーキ」を今回はゲット。注文すると熱々のものをテーブルまで運んできてくれます!!

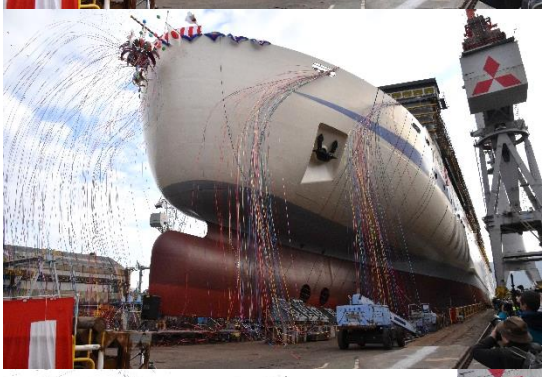
⑤　下関造船所の開門を待つ一般見学者の列。団体客は事前に連絡しておく必要があり、正門からの入場でした。

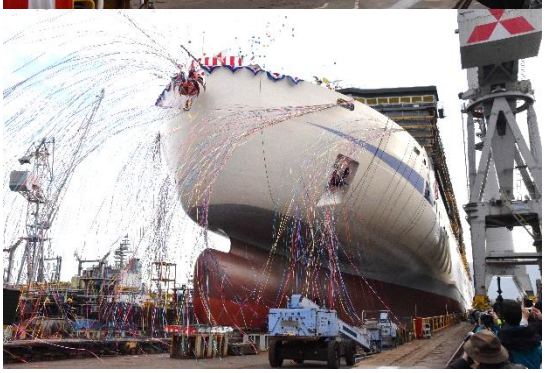


⑥　船台上のフェリーの船体が壁のように立ちはだかっていました。式台への階段が球状船首の先端にほとんど接触しているように見えます。



⑦　紅白の幕で覆われていた船名が、命名と同時にお披露目されました。





⑧　支綱切断されて、船は船台上を滑り降ります。感動的な一瞬です。

⑨　進水した「やまと」は、タグボートによって艤装岸壁へと移動しました。

⑩　厳流島への高速船です。

⑪　下関の岸壁には捕鯨船隊が並んで停泊していました。厳流島行きの高速船の船上からの撮影です。

⑫　厳流島から進水した「やまと」の姿をゆっくり眺めることができました。

⑬　厳流島からみた三菱下関で艤装中の「さるびあ丸」です。

⑭　造船所の艤装岸壁が満杯で、門司港の岸壁で艤装工事中の阪九フェリーの「せっつ」です。3 月には神戸～新門司間に就航します。学会としての乗船会を企画します!!

⑮　門司の海岸線にあるスーパー銭湯「テリハ・スパ＆リゾート」から、関門海峡を通過する船のシップウォッチングを楽しみました。